

## 「反人身取引デー」第3弾

2008年6月に人身取引対策法が施行されたことから、タイでは6月は人身取引防止・撲滅キャンペーン月間です。その一環として反人身取引デーの催しがバンコク都に続いてチョンブリ県パタヤとサムサコーン県マハチャイという地方都市でも開催され、プロジェクトからも参加しました。いずれの都市もバンコクからそう遠くない日帰りも可能な距離にあります。

パタヤはベトナム戦争時に米軍の慰安のために始まった歓楽街があるところで、性産業や労働搾取のために被害者が多く連れてこられるところです。他方マハチャイは漁港で、漁船や周辺にある水産加工工場では主にはミャンマー人労働者が多く働いており、その中には人身取引の被害者も含まれます。それぞれの都市はタイにおける人身取引被害を代表する地域と言えます。



マハチャイ午後の部（パレディスカッション）

各都市での行事は午後の部と夜の部の二本立てで、午後の部は屋内で夜の部は屋外で行われました。

午後の部はパタヤでは学生が多く、マハチャイでは町内会など地域で活動しているボランティアなどが多いようでした。

午後の部は啓発プログラムで、人身取引がいかに身近な問題かを考えさせるようなお芝居やテレビ番組のレポーターによる話、カウンターパートのBATWCの司会によるMDTメンバーの話などで構成されていました。

他方、夜の部には、どちらの会場にも社会開発人間安全保障省の大臣が来られ、政府が人身取引の問



マハチャイ夜の部

題をいかに重視し、力を入れて取り組んでいる

かについて、熱弁をふるわれました。用意された原稿を読むのではなく、身振り手振り



大臣（右から2人目）にプロジェクトについて説明する織田リーダー

話に、大臣がこの問題を熟知されており、熱心であることが伝わってきました。夜の部のお話の後は恒例のお楽しみ会で、テレビタレントや有名な演歌歌手がバックダンサーつきで歌います。とはいえ彼らも歌の合間には人身取引の問題についての話を挟むなどして、啓発活動にも一役買っていました。

プロジェクトでは、いずれの会場でもブースをいただきました。最初は手作りの写真を貼っていましたが他のブースに比べて見劣りがするので、急ぎょ他のブースを真似てプロジェクト活動やMDTについてのロールアップと配布用の絵葉書を作成しました。ロールアップというのはとても便利な持ち運びできるスクリーンです。



プロジェクトの展示ブース（左側がロールアップ）

今後もあらゆるワークショップで活躍しそうです。